

# 小坂市政2期目がスタート

11月28日、小坂喬峰市長2期目の市政運営がスタートしました。  
本紙では、今後4年間の市政のかじ取りを託された小坂市長に抱負などを聞きました。

これまでの4年間、総合計画で目指す「人・地域・自然が輝く交流都市」の誇り・愛着を持ち住み続けるまちの実現のため、さまざまな施策に取り組んできました。恵那くらしビジネスサポートセンターやジバスクラム恵那の設立により、さまざまな、そして新たな働き方を支援する拠点を整えるとともに、新たに恵那西工業団地の整備に着手しました。リニア中央新幹線の開通を見据え、国道19号瑞浪恵那道路は全線事業化され、リニアまちづくり基盤整備計画の策定により、市が取り組む道筋を立てることができました。小中学校へのエアコン設置やネットワーク整備、1人1台のタブレット端末の配備により、安全で快適な、新たな学びの環境が整いつつあります。

朝ドラや大河ドラマを契機に、恵那の知名度は格段に向上しました。加えて、恵那峡再整備事業の完成、くしはら温泉ささゆりの湯や道の駅上矢作ラ・フォーレ福寿の里のリニューアルにより、交流人口を拡大する基盤が整いつつあります。ポータンドカヌー

チームの東京オリンピック事前キャンプ地やWRC世界ラリー選手権日本ラウンドの誘致決定は、さらに本市を世界にPRするチャンスです。2期目となるこれからは、これらの成果を生かし、施策を進めていきます。

新型コロナウイルス感染症対策では、関係者の皆さまの声を聴きながら「感染防止対策」「教育関連」「市民生活の安全確保と支援」「市内企業・事業所支援」の四つの柱に基づき、対策を講じてきました。引き続き、適切な施策を迅速に実施するよう努めます。

9月に策定しました「第2次総合計画後期基本計画」と「第4次行財政改革大綱」を着実に推進するとともに、政策の柱である「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」に基づき、新しい恵那市づくりに全力で取り組んでいきます。

※政策の4本柱「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」については、次ページ以降で紹介いたします

恵那市長  
**小坂 喬峰**  
Takane Kosaka

## 敵はウイルス。人、じゃない。

### コロナ・ハラスメントはやめよう

新型コロナウイルスは、人類未知のウイルスで、誰もが恐怖を感じるものです。

この病気に対する恐怖心、誤解や偏見により、知らず知らずのうちに誰かを排除したり、差別したりしていませんか？身近なところで次のようなこと(コロナ・ハラスメント)が起こっていませんか？

- 退院した感染者が、お店の方から「帰れ」と言われた。
- インターネットで感染者を名指しするような書き込みがあった。
- 感染者の子どもが、学校でコロナのことでいじめられ、泣きながら帰ってきた。
- 感染者が発生した地域で、嫌がらせのビラが配られた。
- 飲食店が、感染者が発生したという噂により、風評被害に遭った。
- 医療従事者の子どもが、保育所で受け入れ拒否やいじめを受けた。
- 子どもが学校を休むと、同級生にコロナに感染したと言われた。
- 感染者が出ている学校の学生が、アルバイト先から解雇された。

### 「思いやり」と「感謝」を

新型コロナウイルスは、誰でも感染する可能性があります。私たちが闘っているのは、人ではなくウイルスです。感染した方を「思いやり」、その立場を守りましょう。最前線で治療や社会生活維持に当たる医療従事者、関係者の方々に「感謝」しましょう。

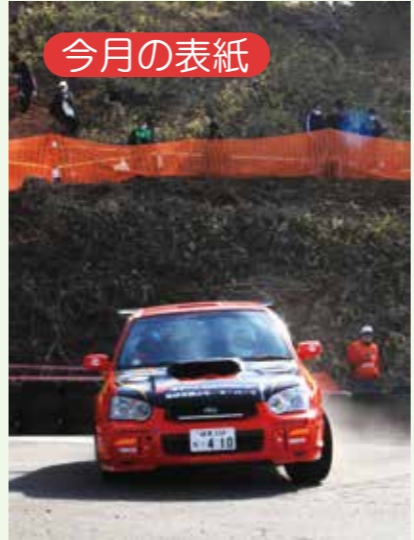


- 患者や濃厚接触者、医療従事者、外国人の方々、他地域からの来訪者、そして、それらの家族や特定の店舗などへの差別的扱い、非難を絶対になくしましょう。
- 不確かな感染情報(デマ)の拡散は許されることはありません。SNSに書き込むなど安易に広げることは、かえって人に不安を与えるだけです。
- 医療従事者をはじめ、新型コロナウイルス対策に携わる関係者の方々、あるいは食品流通業務や、生活安全業務など、私たちの暮らしを支える方々に改めて感謝しましょう。

社会福祉課(内線193)

## 広報えな1月号 目次

- 03 **特集** 小坂市政2期目がスタート
- 08 **注目情報**
  - ・ 議長、副議長、各行政委員会
  - ・ 所得税の確定申告 市・県民税の申告
  - ・ 第18回下田歌子賞の入賞者
  - ・ 地域常設の資源回収拠点
- 10 **お知らせ**
- 16 **みんなの掲示板**
- 17 **おくやみ・県のお知らせ**
- 18 **健康ガイド**
- 19 **相談コーナー**
- 20 **地域情報トピックス**
- 21 **図書館・文化施設情報**
- 22 **エーナの社会見学**
- 22 **ビジネスサポートセンター**
- 23 **健幸レシピ**
- 24 **恵那中央出張所えなえーる**
- 24 **出生・1歳になりました**
- 24 **園・小中学校トピックス**
- 25 **輝く恵那人**
- 26 **ニュースと話題**
- 27 **いいね! 恵那市公式SNS**
- 28 **新型コロナウイルス感染症情報**



### 今月の表紙

## WOMEN'S RALLY 大盛況のうちに閉幕

WOMEN'S RALLY in 恵那 2020が12月5日、6日に開催され、27台のラリーカーが優勝を懸けて市内を駆け巡りました。恵那笠置山モーターパーク会場には、ジムカーナ特設コースが初登場。コース内のコーンを避けて走行するラリーカーに、観客から熱い声援が飛んでいました。レースの他にも、恵那まちなか市のミニ四駆大会や恵那峡での車中泊体験会など、にぎわいを見せた二日間でした。

### 数字で見る 恵那市

人口(12月1日現在)

総数	49,138人	(-73)
男	23,942人	(-24)
女	25,196人	(-49)
世帯	19,881世帯	(-11)

( ) 内は前月との比較

### 人口動態(11月異動)

出生	15人
死亡	68人
1月からの自然増減	-53人
転入	84人
転出	104人
1月からの社会増減	-20人
1月からの社会増減	-319人

### 救急車出動回数(11月)

203回(2,111回)
( ) 内は1月からの累計

### 交通事故(11月)

人身事故	12件	(47件)
物損事故	109件	(1,012件)
負傷者	13人	(52人)
死者	0人	(0人)

( ) 内は1月からの累計  
※件数は数値が変動する場合があります

### 火災(11月)

建物	1件	(10件)
その他	1件	(9件)

( ) 内は1月からの累計



私たちの暮らしの中心は「たべる」ことです。家族団らんの象徴は「食卓を囲む」であり、仕事をするを「食べていく」とも表現します。連続テレビ小説「まんぷく」のモデルとなった日清食品の創業精神の一つが「食足世平」。つまり食が足りてこそ、世の中が平和になるという意味です。インスタントラーメンが生まれたこの時代、まんぷくになることこそ幸せだったのです。

しかし今、私たちの暮らしは豊かになり、生活の質が上がるにつれ、我々が抱える健康の問題は栄養不足から栄養過多に変化しました。平成25年、ユネスコ世界遺産に和食が登録されました。その特徴は、地域に根差した食材と適した調理法であり、和食の理想的な食事バランスは世界から注目を集めることになりました。

調査では、私たちが食品を買うときに重視する点は、「新鮮」「安全」「価格」であり、特に生鮮食品では、85割の人が価格の安い外国産ではなく、高くて国内産を選ぶという結果が出ています。体に入る食物は、安全で安心な物が良いと、多くの日本人が感じています。

生きていく上で、食を切り離すことはできません。食に恵まれた私たちは、とても魅力的です。「恵那のたべる」にもっと関心を持ち、食と結び付く健康や農業、産産、観光、文化の面からも取り組むべきことを考えていきたいと思っています。

## 4年間のあゆみ

- 健幸料理コンテストの開催
- エーナ健幸レシピ集の作成
- 食のアドバイザー養成講座の開催
- プロの料理人による料理教室の開催  
(対象者：一般、中学生、小学生親子、妊婦・保護者)
- 「半分、青い。」の放送に合わせ全国に向けた五平餅のPR
- たべとるマルシェの開催
- 「えないっぱい給食」の提供
- 耕作放棄地の解消に向けた補助金導入
- たべる推進協議会の設立
- 全国発酵のまちづくりネットワーク協議会への加入
- 食の情報発信拠点「恵那中央出張所えなえーる」を開所
- 学校給食センター食物アレルギー対応給食室の建設に着手



▲えなえーるキッチンスタジオで開催した「簡単塩こうじ講座」

## 今後の取り組み

いつまでも持続できる地域であるために、安心安全な食の提供と食の地産地消を推進し、食料自給率100%を目標に取り組んでいきます。

「えなえーる」キッチンスタジオなどを活用し、恵那の味の伝承と新たな食の開発を推進するとともに、食を通じた健康づくりをより一層進めます。

さらに、食による観光の活性化に取り組むとともに、食に関わるさまざまな産産を支援し、地域の活性化を図ります。

## 4年間のあゆみ

- サテライトオフィス SOZO<sup>ソウゾウ</sup>の創設
- 恵那くらしビジネスサポートセンターを開設
- 産業振興会議の設置
- 市産業振興ビジョンの策定
- もうかる農業プロジェクトの発足
- 市観光ビジョンの策定
- くしはら温泉ささゆりの湯のリニューアル
- 連続テレビ小説「半分、青い。」、大河ドラマ「麒麟がくる」関連事業
- スマート農業の推進
- 道の駅上矢作ラ・フォーレ福寿の里のリニューアル
- 地域商社ジバスクラム恵那の設立
- 恵那峡再整備が完了



▲リニューアルした恵那峡の桃介広場

## 今後の取り組み

恵那西工業団地造成を含めた企業誘致と市内企業の育成を引き続き進めるとともに、本社機能移転やサテライトオフィスなどの新たな形の企業誘致を推進し、働く場の創出に取り組めます。

農業の支援や持続可能な社会づくりに取り組み、新しい働き方を実現するとともに、ジバスクラム恵那や恵那くらしビジネスサポートセンターと連携して、創業、起業、新産業の育成などを支援し、コロナ後の働き方を応援します。

高齢化が進む中、いつまでも元気で働くことができ、高齢者の生きがいとなる働く場を確保するとともに、子育てや家族と暮らしながら働く環境づくりを推進します。



人間の仕事の約半分は、コンピュータによって自動化されるという衝撃的なニュースが世界に流れました。一方、人生百年時代という言葉をよく耳にするようになってきました。高齢者にとって働くことは、生活や健康面の両面から普通のこととなりつつあります。

市内の社会福祉法人では、健常者も障がいを持つ人も同じように働くことが最も重要で、働くことで人は成長し、幸せになれるという目標を持っていきます。平成29年度に実施した市民意識調査では、「働く環境が良い」「やや良い」と回答した方はわずか3.9割で、58.5割の方が「恵那ではたらく」ことを考えています。

5割の方が「恵那市の働く環境を伸ばすべき」と回答しています。多くの方々は、恵那市に働く場が十分ないと感じています。現在は、大学を卒業して恵那市に戻って働く人の割合も決して多くありません。

恵那市で生まれ育った子どもたちが「恵那ではたらく」ことが求められていると考えることが、誰かが安心して働くことができるまちを目指していききたいと思っています。「恵那ではたらく」を考えることは、恵那市の存続を考

「自分たちの町は自分たちで守るぞ」  
少年消防隊の訓練



### 4年間のあゆみ

- 市内全14小学校区へ放課後児童クラブを設置
- 都市計画マスタープランの改定
- 瑞浪恵那道路恵那工区の事業化
- 中野方分遣所を中野方コミュニティセンター内に開設
- 岩村町と山岡町でデマンド交通の開始
- 新丸山ダム付け替え国道418号市内着工
- リニアまちづくり基盤整備計画の策定
- 各地域に常設資源回収拠点を開設
- 空き家掘り起し奨励金の導入
- 正家第二土地区画整理事業が完了
- 武並駅周辺整備計画の検討開始
- 特別養護老人ホーム明日香苑と福寿苑の大規模改修に着手



▲瑞浪恵那道路(恵那工区)の中心杭打ち式

### 今後の取り組み

全ての恵那市民が安心安全に暮らすため、社会保障と福祉のセーフティネットを拡充するとともに、自然災害に強いまちを目指し、防災および生活安全対策を充実します。

リニア中央新幹線の開通に向け、国県と連携した計画的な社会基盤整備を進めるとともに、バスなどの公共交通の新たな仕組みの検討を進め、快適に住み続けられるまちをつくりまします。

関係人口の増加や移住定住、空き家対策などを引き続き積極的に進めるとともに、Uターン、Iターン、Jターンを支援し、人口減少対策に取り組まします。

平成7年阪神淡路大震災や平成23年東日本大震災など、平成の30年間は地震や火山の噴火、豪雨などの自然災害に見舞われた時代だったと感じます。地震調査研究推進本部は、東南海地震が30年以内に70%の確率で発生すると発表しています。

の平均気温はこの百年で1.21度上昇しています。人の暮らしは、常に自然との共存であることを、私たちは時に忘れそうになります。

ながら、恵那市では車のない暮らしは想像できないとの声もあります。グループ参加のウェイモは、2018年アメリカ国内で自動運転タクシーの商用運用を開始しています。技術の進歩は、私たちの暮らしの未来を確実に変えようとしています。

上矢作小学校  
ドローン体験教室



恵那市は、平成23年4月1日に生涯学習都市「三学のまち恵那」を宣言しました。「社会に有為な人になろうとの高い志を抱いて学び続けられ、その精神は朽ちることがない。より良い自分を目指して生涯学び続ける人は、いつまでも人の心に残る人になる」と説く郷土の先人、佐藤一斎翁の三学の精神を理念としています。

この米百俵の物語は、教育と地域の未来とのつながりを示す有名な話です。近年多くの観光客を集めているのは、エコツーリズムや文化、遺産観光といわれる分野です。「見る」や「食べる」ではなく「学ぶ」、つまり体験や知識習得が観光の目的になっていきます。学ぶことは人々が求める楽しみでもあるのです。音楽や美術、芸術を学び、理解し、楽しむことで私たちの生活は豊かになります。

コロナで3カ月休校となつた今年、子どもたちは学校に行けることや学ぶことの喜びを改めて感じました。高校や大学では、オンラインでの学びも始まっています。私たちが住むこの恵那を理解することは、このまちを好きになることにつながっています。このまちを支える一人一人の気持ちを理解することは、次の時代、このまちを支える人を育てることになるはずなんです。

学ぶ機会や学ぶ場所、新たな学びの形など、今の私たちが「恵那でまなぶ」を考えていかななくてはならないと思います。

### 4年間のあゆみ

- 武並小学校屋内運動場の改築
- 恵那東中学校の大規模改修
- おさしま二葉こども園の開園
- 恵那文化センターの大規模改修
- まきがね公園体育館、野球場、テニスコートの大規模改修
- 市内全てのこども園と小学校、中学校に空調設備を導入
- 恵那西中学校駐輪場の改修
- 明智小学校プールの改修
- 三郷小学校の校舎と屋内運動場の大規模改修に着手
- 小中学生1人1台のタブレットパソコンの配布
- 市内全てのこども園と小学校、中学校のトイレ洋式化に着手



▲まきがね公園体育館リニューアル

### 今後の取り組み

年齢に関わらずいつでも学べる環境づくりを推進するとともに、全ての人々が学ぶ喜びを分かち合えるまちづくりを進めます。

ICTを活用し、コロナ禍の中でも継続して学び続けることができる仕組みづくりを進めるとともに、テレビやインターネット、体験学習により、楽しんで学べる環境づくりを進めていきます。

コロナ後の新たな学びの姿を調査研究し、積極的に展開していきます。